1 *Casa de lava - Caderno page #4*
©Pedro Costa, Courtesy of Akio Nagasawa Gallery

2 *Breakfast guests, Ankara, Turkey*, 2012, 16 x 20 in.
©André Príncipe, Courtesy of Akio Nagasawa Gallery

ペドロ・コスタ「溶岩の家」&
アンドレ・プリンシペ「内なる海」

このたび 、Akio Nagasawa Gallery Ginza では、ポルトガルを代表する映像作家ペドロ・コスタとアーティスト／映画監督／編集者であるアンドレ・プリンシペによる二人展を開催いたします。

本展は、ペドロ・コスタが1994年に発表した長編第2作目『溶岩の家（Casa de Lava）』の制作過程で作成したスクラップブックをもとにした写真作品と、アンドレ・プリンシペによる近年のプロジェクト『内なる海（Mar Interior）』を中心に構成されます。

コスタは『溶岩の家』の準備段階において、絵画や写真、手紙、新聞記事、落書き、文学の引用、ポートレイトなど多様なイメージをスクラップブックにまとめました。映像に先立って存在したこの「視覚的シナリオ」は、映画のトーンを形成するうえで重要な役割を果たしています。
これらのプリント群を写真作品として展覧会で公開するのは、今回が初めてとなります。

両作家は長年にわたり親密な関係を築いており、コスタの作品集をプリンシペが主宰する出版社〈Pierre von Kleist〉が刊行するなど互いの制作に深く関わってきました。
その関係はある種の“共犯関係”とも言えるものです。

会期中 8月30日（土）には、Akio Nagasawa Gallery Ginzaにてお二人によるサイン会を開催予定です。当ギャラリーのオンラインショップにて作品集を予約いただいた方を対象に、作家がその場でサインを入れ、お渡しいたします。この貴重な機会をぜひお見逃しなく。

8月28日（木）より、東京都写真美術館にて、ペドロ・コスタの大規模個展「インナーヴィジョンズ」も開催されます。ぜひ本展とあわせてご覧ください。

《ステートメント》

「このノートは、私が映画でやろうとして、できなかったことが詰まっている。」
ペドロ・コスタはそう語っている。

映画『溶岩の家』（1994）の制作時に彼が作成したスクラップブックには、報道写真や詩の断片、新聞記事、ポストカード、誰かの記憶や忘れられた歴史が静かな熱を帯びて貼り重ねられている。
それは物語の構成要素ではなく、「見ることそのものの前にある、まなざしの断片」であり映画のトーンを決定づけた、もうひとつの“脚本”であった。

本展では、このスクラップブックをもとに制作されたプリント群を世界で初めて写真作品として公開する。
コスタ自身の言葉を借りれば、これは「映画が持ちえなかった皮膚の下の臓器」であり、
失われゆくものへの「静かな詩」である。

同時に展示されるアンドレ・プリンシペの『内なる海』は、写真を通じて記憶の地層を掘り起こすような実践だ。
「映像では語りきれないもの」を探求し続けてきたふたりの作家がそれぞれ異なる方法で、
しかし共鳴しながら、フィクションと現実、私的な記憶と歴史のあいだにある “空白” を
見つめている。

－引用出典：ペドロ・コスタ、*Pedro Costa and the quiet poetry of film*

内なる海（Mar Interior）

古い神話が呼び起こされ、野生の動物たちは足場（スキャフォルディング）に向き合う。
ミノタウロスの腹の奥には、感情の知性がひそんでいる。
海を渡ることは、ますます命がけになっている。

鏡と窓はあらゆる場所に置かれている。
それらは出口であり、同時に罠でもある。

いま、もう一度——
私たちは古の師たちの知恵に立ち返らなければならない。

迷宮の出口は、いまや“上方”に開かれている。
壁が崩れ、目が闇に慣れたとき、
私たちはまた、誰かとつながる可能性を手にする。

－アンドレ・プリンシペ

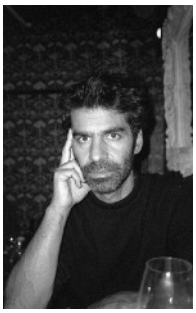
《作家略歴》

ペドロ・コスタ（Pedro Costa）

1958年ポルトガル・リスボン生まれ。『溶岩の家』（1994）、『ヴァンダの部屋』（2000）、『コロッサル・ユース』（2006）などで知られるポルトガルを代表する映像作家・映画監督。『ホース・マネー』（2014）、『ヴィタリナ』（2019）でロカルノ国際映画祭金豹賞受賞。現在、東京造形大学客員教授。

■ フィルモグラフィーほか詳細は こちら

アンドレ・プリンシペ（André Príncipe）



1976年ポルトガル・ポルト生まれ。アーティスト、映画監督、出版者。荒木経惟、森山大道、中平卓馬を追ったドキュメンタリー映画『日記をたどる（Traces of a Diary）』（2011）、映画『Flamingo Field Without Flamingos』（2014）などで国際的に注目を集める。写真集の刊行多数。自身の出版社「Pierre von Kleist」では編集・デザインも手がけ、ペドロ・コスタらの作品集も出版している。

■ Pierre von Kleist 公式サイト https://www.pierrevonkleist.com/

《開催概要》

ペドロ・コスタ「溶岩の家」＆アンドレ・プリンシペ「内なる海」

会期	2025年8月7日（木）－9月6日（土） 火曜～土曜 11:00–19:00 （土曜 13:00–14:00 CLOSED） 休廊日：日曜、月曜、祝日 ※夏期休廊：8月12日（火）－8月16日（土）
会場	Akio Nagasawa Gallery Ginza [map] 〒104-0061 東京都中央区銀座4-9-5 銀昭ビル6F　TEL：03-6264-3670
公式ページ	https://www.akionagasawa.com/exhibition/casa-de-lava-mar-interior/

《サイン会概要》

日時	2025年8月30日（土）11:00より
会場	Akio Nagasawa Gallery Ginza [map]
参加方法	オンラインショップにて作品集を予約いただいた方を対象に 作家がサインを入れ、直接お渡しいたします。 ▶ ご予約はこちら

表紙イメージ

《関連情報》

東京都写真美術館「総合開館30周年記念 ペドロ・コスタ インナーヴィジョンズ」

会期	2025年8月28日（木）－12月7日（日）
会場	東京都写真美術館 地下１階展示室
公式サイト	https://topmuseum.jp/contents/exhibition/index-5093.html

展覧会メインビジュアル

《広報・ご取材に関するお問い合わせ》

AKIO NAGASAWA Gallery｜Publishing（担当：後藤）goto@akionagasawa.com

《広報用画像》

ご希望の画像番号をお申し付けください。

3

4

5

6

7

8

3. *Casa de lava - Caderno page #8*
4. *Casa de lava - Caderno page #22*
5. *Casa de lava - Caderno page #39*
6. *Going back home, Comporta, Portugal*, 2011, 16 x 20 in.
7. *Dinner in Galata apartment, Istanbul*, 2013, 16 x 20 in.
8. *Fire, Portugal*, 2021, 16 x 20 in.
3-5. ©Pedro Costa, Courtesy of Akio Nagasawa Gallery
6-8. ©André Príncipe, Courtesy of Akio Nagasawa Gallery